

## 食といのちの未来を拓く

# 人々の生活を支える「幸せ創造企業」

## フクシマガリレイ 株式会社

**GALILEI**  
Be cool, Be alive.

1951(昭和26)年に創業し、業務用冷蔵庫やショーケース、医療理科学機器などの製造を手掛けるフクシマガリレイ株式会社は、「冷やす技術」を核に高い開発力をもって「食」を中心とした人々の日常生活を支えています。

今回は代表取締役会長の福島裕氏に、創業時のお話、多品種少量生産や顧客サービスにおける工夫、そして今後の挑戦などについて伺いました。

(インタビュー：公益社団法人 大阪府工業協会 専務理事 大辻 真一)

### 創業者である父の姿に学ぶ

**大辻専務理事** 本日は大変お忙しいなか、ありがとうございます。それでは最初に創業時のお話をお聞かせいただけますか？

**福島社長** 当社は1951(昭和26)年に父の福島信夫が「福島工業 株式会社」を創業したことに始まります。当時は大手メーカーからの受注に応じて業務用厨房関連製品全般の製造を手がけていました。創業時「モノを作って納めること」を生業としたいと考えていた父は、下請けとしてものづくりを行っていたわけです。しかし、それも骨の折れる仕事でした。ある日とあるメーカーから「アルミニウムを使って冷蔵庫を製造してほしい」と注文がありました。アルミニウムといってもジュラルミンです。おそらく航空機の廃材か何かで入手性が良かったのでしょう。ですがジュラルミンというのはいかんせん加工性が悪く、製品が検収となるまでに幾多の試行錯誤と多くの時間・費用を要しました。そんなエピソードがあるように、当時のものづくりというのは一筋縄ではいかず、すべての顧客要望に応じてはコストが膨らむばかりでした。そこで父は「何でも屋でさまざまな製品を製造して売るのは、営業力のある卸売りの商社にはかなわない、ひとつに絞るべきだ」という考えに到達し、自社が最も得意とする「業務用冷蔵庫」に目をつけました。そして1960年、当社は下請けとして何でも手がける“サプライヤー”から、業務用冷蔵庫の“メーカー”への転身を果たしたのです。

そしてその2年後の1962年、当社は規格化された業務用冷蔵庫を日本で初めてロールアウトしました。しかし、当時の業界は受注生産品が主流で

したので、当然これは同業他社から大きな反発を受けることとなります。ですが父はなんとそれを同業他社に売り込んだのです。「これは納期も早いし性能も良い、必ずや利益につながるからぜひ御社で販売してほしい」まさに逆転の発想でした。これが功を奏し、この製品は量産化され大きな成功を収めました。父のこのような経営者としての柔軟な発想は、見習うべきところがありますね。

次に手掛けたのは、冷凍冷蔵オープンショーケースです。この開発に先立ち、父は同業他社とともにアメリカへ赴き、現地のスーパーマーケットを視察しました。期間は2週間、同業他社の多くは海外のショーケース製造企業とアライアンスやライセンス契約を結んで帰国するなか、父は違いました。なんと視察期間が終わった後もアメリカ中のスーパーマーケットを3週間ほどかけて見て回ったのです。そして帰国したのち、父は海外企業に頼らず独力での開発を行い、1964年に冷凍冷蔵オープンショーケースの規格化に成功します。

この技術者としての根性には目をみはるものがあります。商人としても技術者としても優れた父は、私の最も尊敬する経営者のうちの一人です。



業界初  
業務用規格冷蔵庫  
ERシリーズ



オープンショーケースを規格化  
POSシリーズ



代表取締役会長 福島 裕 氏

## フクシマガリレイ 株式会社

事業内容：業務用冷凍冷蔵庫、冷凍冷蔵ショーケース、その他冷凍機応用機器の製造・販売・メンテナンス

本 社：大阪市西淀川区竹島 2-6-18

創 業：1951(昭和 26)年

従業員数：2,524 名(2024 年 3 月期)



会社ホームページへリンクします



### 「フクシマガリレイ」に込める想い

**大辻** 社名を「福島工業株式会社」から「フクシマガリレイ」へと変更されていますが、これにはどのような想いが込められているのでしょうか？

**福島** 当社が社名を変更したのは2019年のことですが、これに先立つ10年ほどの期間でいくつかの企業が「ぜひ仲間に加わりたい」とグループに参加していただきました。ですがグループの拡大に伴い事業も拡大していくなかで、お客様にも分かりやすい、当社のグループを説明する“統一ブランド”が必要だと考えました。そこで若手を中心にプロジェクトチームを組んで、2016年～2018年の2年間、300ほどの公募の中から選考を重ねてブランド開発に勤しんだ結果、「フクシマガリレイ」が誕生しました。この「ガリレイ」というのは言うまでもなく「ガリレオ・ガリレイ」のことです。天動説が定説とされていた時代、宗教的な迫害を受けてもなお科学的見地から正しいと考える地動説を貫いた彼の精神には、技術者の独創的発想、頑固なまでの技術へのこだわり、そして信念を持って最後までやり遂げるといった点において、当社グループの理念に通ずるところがあったわけです。またこのガリレイの「レイ」の部分「冷」にかかっている点もミソですね。



### お客様のニーズを「製販一体」で解決

**大辻** 創業者の意志、経営の理念、コーポレートブランドにかける想いを現場と共有するために、どのような工夫をされているのでしょうか？

**福島** 私どもは「製販一体」をモットーにしています。お客様や社会のニーズ、それを実現する開発、開発したものを量産化する工場、この3つをつなげることで、可能な限り短納期かつローコストで多品種少量生産を実現すべく努めてきました。

具体的な取り組みの一つとして、これは私が専務時代に発案したのですが、全員が新製品提案書を上げられるようにしています。もちろん誰でも提案できるからといってすべての提案を通しては工場が混乱してしまいますので、その提案に関して経営的判断が加えられますが、その会議では各部門長による喧々囂々の議論が数時間にわたり繰り広げられることもありました。ニーズ、開発、生産の全てを最適化するために全員が一丸となって取り組んでいます。

開発部門が工場と同居している点も重要です。開発と生産が一体となって、小集団活動による改善を各工場ですべてで行っています。デザインが絵に描いた餅とならないためにも、また設計変更への対応を柔軟に進めるためにも、開発は現場を知っていなければなりません。

また、開発や製造が、自分が手掛けたものが納品先でどのように使われているかを目にする機会があるというのも一つの特長です。自身の日常のなかでニーズを意識することになりますし、大きなモチベーションにもつながります。

「お客様のニーズを最適形で解決する」ということに向けて取り組みを続けていくうちに、い

ずれそれは会社全体で共有される“社風”となり、全社員が自然と意識するようになると考えています。社風をさらに浸透させるためにも、これらの取り組みをいかにして継続させるかが今後の課題となっています。

## 製品保証体制とメンテナンス技術者の育成

**大辻** 以前、貴社の岡山工場を見学させていただいた際、非常に多くの種類の製品がラインに流れていることに驚かされました。幅広い品種があるとアフターサービスなどご苦労が多いと推察いたしますが、その点に関してはどのような工夫がされているのでしょうか？

**福島** 多品種少量生産を短納期で実現すべく、当社の製品は全てモジュール化しており、中間検査と最終検査を全数行い、不良を水際で取り除く検査体制を整えています。また検査データは全てクラウド上に保管しているため、トレーサビリティも確保しています。

ただ、これだけの品種があるどうしてもお客様の使用のなかで一定数故障が起きてしまうのも事実です。それを見越して、当社ではコールを受けて90分以内でお客様の元へ駆けつける「90分着」を可能とする、全国75か所のサービスネットワークを構築しています。メンテナンスの技術者は自社で育成していますが、夜間などの対応もあるため一部は外注しています。ただ、こうしたメンテナンス要員はお客様のニーズに最も身近で触れられる存在であるため、いずれは完全内製化を目指しています。

しかし、立ち足はだかるのはメンテナンス技術者の高齢化問題です。これはメンテナンス外注先の技術者に関しても同様であり、若手の育成は喫緊の課題となっています。

そのための策として、若い方にも興味を持っていただくべく、メンテナンスに関してもIoTといった最新技術を導入するよう投資活動を行っています。2001年に遠隔管理で24時間メンテナンスを可能とする「フクシマSネット24」、2014年に



はエネルギー管理システム「Bems-you」を構築、現在はDXをさらに推進して、お客様の使用状況から事前に故障を察知、メンテナンスで未然防止する「ゼロコールカンパニー」の体制構築を進めています。

また、もう一つの技術者育成の工夫として、2022年にメンテナンス技術者を養成する「ガリレイアカデミー」を開校しました。ここでは若手技術者の即戦力化を図るべく製品や施工管理の教育、および各種メンテナンスの実機研修、そして関連する国家資格の取得を支援しています。従来のOJT研修では5年かかっていた技術者育成が、このアカデミーの創設により3年でできるようになりました。



ガリレイアカデミー

## 海外で挑戦する若者を支援

**大辻** 貴社は海外展開を加速させるべく、GALILEI Global Vision 2030を策定されたとのことですが、今後の海外進出にける想いをお聞かせください。

**福島** 私自身は20代のころからどうにかして海外に出られないものか、いつも思索しておりました。国内市場においては制約が多すぎるという現実的理由もあります。しかしより重要なのは、日本を出て海外で活躍する人材をこのフクシマガリレイから輩出したい、という強い想いがあったためです。若い方にはぜひ海外で挑戦するという経験を積んでいただきたいと思っています。日本が縮小していることもあり海外志向の若手が少しずつ増えている傾向も見られますが、まだ多数派ではないように思えます。そのような海外でチャレンジする方に向けて活躍の場を提供し、その後押しをできればと考えています。その活動の一つとして2017年に「フクシマグローバル人材支援奨学財団」を設立し、若い方たちが海外へ留学する支援をしています。

## オープンイノベーション拠点「MILAB(ミラボ)」

人と人、人と技術、技術と技術がつながるガリレイグループの『MILAB(ミラボ)』。オープンイノベーションの拠点として、ガリレイグループ本社ビル(大阪)に併設されています。フクシマガリレイの製品はもちろん、厨房機器メーカーの様々な機器やシステムを取り揃えたキッチンエリアや、最新ショーケースを配したストア、食品工場などで大量冷却・凍結を行うトンネルフリーザーが設置された食品工場研究室などがあり、幅広い製品を実際に、見て・触って・体験できます。



### 衛生検査や味覚分析で新たな商品開発をサポート

食材のおいしさ・安全性・栄養価の分析などを科学的に検証・評価し、様々なデータからお客様の商品作りをサポートします。また、分析機器を含めたお客様の自主検査室づくりもトータルでサポートします。



# MILAB

200人を超える若者の支援実績があり、年に1回、海外に行き帰ってきた方とこれから海外へ行く方が交流できる場も提供しています。

### 技術を磨き、さらなる挑戦へ

**大辻** YouTubeで貴社の「スマートストア」の動画を拝見しましたが、その先進的技術に大きな感銘を受けました。今後そういった先進技術をもって事業をどのように進めていくのか、ご教示いただけますでしょうか？



※参考:YouTube動画QRコード

**福島** その方向性はお客様が何を望まれるかによって決まると思います。当社は先端技術を用いたシステムの開発を目的とはしておらず、そのような技術が発達していく状況で、冷蔵庫やショーケースといった当社製品が、どのような役割を果たすべきかを模索しています。結局はお客様ありきですね。あるお客様のハイレベルな課題を見事クリアできれば他のお客様にも当社をご活用いただけると見込んで、技術のアップデートは継続しています。

**大辻** 貴社は医療分野の方にも進出されているようですが、そちらはまた既存事業とは異なるのでしょうか？

**福島** 「冷やす」という点に関しては共通していますね。ただ冷やすものが食品ではなく細胞や実験材料になりますので、冷やす温度や手法も違います。当然関連技術に関しても食品のそれとはまるで異なるものですので、まさに未知の分野への挑戦でした。ただ関西では医療分野の研究活動が盛んであり、当社も関西の一企業として何らかの形で医療の進歩に寄与すべく、産学連携で研究開発に注力していきたいと考えています。

### 今後に向けて

**福島** 昨今は社会も大きく変わり、労働に関する考え方も変わってきました。当社のお客様はコンビニエンスストアやスーパーマーケットなど、場合によっては24時間365日稼働していることもあります。そのため顧客第一主義が根付いた営業マンは、自己犠牲で時間外の顧客対応をしようとすることもありました。そこでそのような風潮を是正すべく労働時間の管理を明確にし、社員の定着率向上に努めています。

一方で時代が変わろうとも変えてはならないものもあります。それは創業者の想いであり、グループの理念であり、技術にかけるこだわりであり、そして何よりも挑戦を続けていく意志であります。当社は皆様の「幸せ」を実現することによって企業として社会的責任を果たすべく、今後も「冷やす技術」を磨き続け、「幸せ創造企業」を目指して邁進してまいります。

### 一貴重なお話をいただき、ありがとうございました



(写真左は協会専務理事 大辻眞一)